

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生協	代表者	西村 哲範	法人・事業所の特徴	住み慣れた地域で 自分らしく 最期まで過すことができ 個々のご家庭にあわせご本人の希望に合うように柔軟なサービスを提供し かかりつけ医・訪問看護と訪問リハビリと連携をとり 福祉用具を活用しながら在宅生活を続けて頂いています。
事業所名	小規模多機能ホーム ふるさと	管理者	黒田 ゆうこ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	1人	人	人	1人	人	1人	人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	個別ケアが出来るように 計画書の理解を深める	利用者情報等部会でケアマネが説明 部会時期で出来ないこともあった	時期的に厳しい時は申し送りで説明してはどうか 職員も知ろうという意識を持って自身から学ぼうとする事も必要ではないか	申し送り事項は忘れることなく継続しておこなう。ご利用者の事をもっと理解しどう接するかを考え意見を出し合う
B. 事業所のしつらえ・環境			備品整備をし片付けるスペースを考える。	居室の環境を考える
C. 事業所と地域のかかわり			地域行事があれば参加していく (地域のカフェ等) 桜祭りへの参加 (晴れの時のみ)	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み				送迎時にご近所の方に声掛けやご本人の生活歴で民生委員の方にも協力を求める
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で地域包括の方をはじめ 出席者の方の意見を活かした取組みを考えていきたい	子ども会も無くなりかかわりが難しいが 防災に関して詳しく教えて頂いて訓練時に伝達している	今後のかかわりをどのようなことがあるか 考えていきたい	地域の方に暮らしを配たりして事業所を再認識して頂く
F. 事業所の防災・災害対策	近隣事業所・地域の方との訓練を実施できるようにする。BCPの作成が出来ればしていきたい	避難訓練は年2回実施 夜間1回 昼間地震からの火災想定で実施 水害想定は話し合いを実施した	地域の方にはお手伝いをお願いしている 実際地域の防災訓練に参加できていない	毎年、訓練は継続しなければいけない。ご利用者により避難手順が違うので都度確認は必要